島根大学教育学部後援会 編集・発行

国立大学法人島根大学

教育学部後援会誌

第3号
平成19年3月

ごあいさつ

教育学部後援会　会長　山　﨑　敦　史

三寒四温の今日この頃、教育学部後援会会員の皆様にはますますご清祥のことをお慶び申し上げます。平素は、島根大学教育学部及び教育学部後援会の運営に対しまして温かいご理解とご協力をいただき心よりお礼申し上げます。

さて本後援会は、今年度も「島根大学教育学部の発展充実に寄与し、在学生の教育に関し、学部に協力する」という目的のために、学生の教育実習や課外活動、国際交流活動などの教育活動への支援や就職対策などの進路指導などの充実に向けた支援事業を進めてまいりました。教育学部が平成16年度から全国に先駆けて始めた「1000時間体験学修」も３年目を迎え、３年生の姿からも様々な体験を通して学んだ成果が見えてきているようです。この「1000時間体験学修」を始め、学生たちの課程内外の様々な活動が充実し多くの成果を上げているのも、会員の皆様の温かいご支援のおかげと感謝しております。

平成18、19年度の２年間、教育学部棟の耐震化工事が進められています。平成20年の春には全館改修され新しくなった教育学棟での講義やゼミが行われるようです。講義室を始め、専門分野や研究室ごとの学生の控室なども新しくなり、明るくきれいな部屋でさらに充実した学生生活を送ることができるのではないかと期待しているところです。この工事にあわせて、新しい学生控室の備品整備などの教育環境整備も進められるようです。本後援会としてもこれらの教育環境整備への支援を、会員の皆様のご理解を頂きながら、行っていくことができればと考えております。

また、国の厳しい財政状況の中、独立行政法人島根大学も経費削減を進めざるを得ない状況です。このような状況下においても教育学部が日々の講義や「1000時間体験学修」などの取組を充実させ、学生たちに教師としての確かな力を身に付けさせる上で、本後援会の役割はますます大きくなると考えます。

今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

後援会は、みなさんの会費で運営されています
お子様の大学生活を支援する後援会に是非御加入下さい

☆会費の納入は、入学手続きの際に配布した封筒に同封されている「銀行振り込み用紙」をご利用下さい。
☆会費納入口座は、「山陰合同銀行島大前支店（普）2702605　島根大学教育学部後援会」です。
☆お問い合わせは、後援会事務局（TEL.0852－32－6252　教育学部総務係）までお願いいたします。
（メールでのお問い合わせは、koho@edu.shimane-u.ac.jp まで）
教育学部ホームページのURLは　http://www.edu.shimane-u.ac.jp

教員の養成から教師教育へ

教育学部長　高岡　信也

後援会員の皆様、そして平成19年度入学生のご父兄の皆様、ご健勝のことと拝察申し上げます。日頃から、島根大学教育学部の教育活動にご理解を賜り誠に有難く存じます。

後援会誌の発行も３回目を迎えました。第３号では、先般行いました「島根大学教育学部教育フォーラム」（２月27日開催）の特集を組み、日頃の私たちの教育活動の一端とそれらを支える基本的な理念、教師養成に取り組む姿勢等について紹介させて頂きます。

島根大学教育学部は、平成17年度から２カ年間、文部科学省が全国の大学に公募した「大学・大学院における教員養成推進プログラム事業」を受託（国立大学では20校）しました。先般行った「教育フォーラム」は、その事業成果の一端を見て頂き、事業の一応の締めくくりとして行ったイベントです。当日は、約300人に上る参加者（そのうち半数は学生諸君であり、保護者や地域の方々の参加も予想以上でした）があり、熱心な活動発表や討議、講演が行われました。

私も、プログラムの最後に行われた「座談会」の司会を仰せつかり、松浦正敬（松江市長）、園山土筆（NPO法人あしぶえ理事長）、岩崎知久（出雲科学館副館長）の三氏から「未来の教師に期待すること」について貴重な提言をいただきました。御三人は、子ども時代の教育体験、おとなになってからの経験などを踏まえながら、多面的な視点から教員養成への期待を語られました。私は、御三人のそれぞれの言葉の中に、共通する思いがあることを感じました。それは「体験活動を通じて、教師という職業に必要な感受性を磨くことの大切さ」であり、「人の気持ちに寄り添い理解し、受け入れる感性」です。また、「自己と他者とのより良い相互理解を促すコミュニケーション能力」のことだとも感じました。

ところで、私は、今回のフォーラムでこれまで曖昧なままに、いわば「放っておいた問題」に結論を得た気がしました。それは「私達がなすべき教師を育てるという実践は、教員養成か教師教育か」という問題です。教員養成の「養成」とは、トレーニング（TRAINING）の訳語で、訓練とか練習のことです。教員養成とは「若者を、教員という公的職業に就けるように訓練すること」と言い換えることができます。さらに言い換えれば、「教師として身につけるべき（教科の教育方法や教育相談等に関する）技術を修得させること」です。トレーニングの中身はテクニックとなります。現代的な意味での専門的職業にはもちろん「卓越した技術」、「素人では真似のできない特別な技法」が求められます。しかしそのような志向は、行き過ぎれば、やせ細った技術主義に陥る危険があるとも思うのです。

一方、教師教育という言葉に含まれる「教育」（EDUCATION）には、単なる教える技術の修得を越えた、人格的な成長を促す営みという意味があります。まさに、感受性や他者に共感する力、思考力や判断力といった知的能力、好奇心や美的感覚等、総体としての人格形成が含まれています。教師という職業人を育てるとは、そのような意味での人格形成を基礎に、「教師力」という職業的能力を積み上げることなのです。

先の御三人が異口同音に強調された教師への期待の背景には、「教員」という高度な技術者、公務員としての職業人を促成栽培することへの危惧が示されていました。複雑な教育問題を解決するには、高度で専門的な知識、技術、技法が必要です。しかし一方、その知識や技術を駆使し、日々子どもたちに立ち向かうのは、人間としての教師であるはずです。人間としての魅力に溢れた人にしか教師という職業につく資格はない、「教師」を育てるとは、まずはすぐれた社会人としての「おとな」を育てることであって欲しいということに尽きるのではないか。私には、そのことを確認する大切な「座談会」でした。皆様のお子様方は、今本学部で教師をめざして懸命に努力を重ねています。是非一人ひとりの成長を見守っていただきますよう、改めてお願いいたします。

後援会による教育学部支援事業

平成18年度に実施した主な事業はつぎのとおりです

1 学生の課外活動支援（約60万円）
部活動、大学祭等の資金援助のほか中四国大学学生交流経費の一部を補助しました。

2 教育実習支援（約70万円）
副免取得希望の学生の教育実習経費に補助をしました。

3 国際交流支援（約80万円）
韓国、中国の交流大学への学生派遣、教員派遣経費の一部を補助しました。

4 広報事業（約50万円）
「機関誌」を発行し、教育学部の教育・研究活動や学生の皆さんの活躍をお知らせすることにしました。

5 教育環境整備支援（約30万円）
学部の教育環境の改善を図る経費を補助しました。

6 就職支援（約20万円）
就職情報の収集、就職先の開拓等学生の就職活動を支援する活動に補助しました。

特集

「教員養成GP総括フォーラム」を開催しました

主催＊島根大学教育学部
後援＊島根県教育委員会、鳥取県教育委員会、松江市教育委員会、米子市教育委員会

フォーラム開催の趣旨

平成17年度に採択された「大学・大学院における教員養成推進プログラム（教員養成GP）」に基づき、①学部教員の意識改革と授業改善（ファカルティ・ディベロップメント）、②「1,000時間体験学修」を核とした地域社会との協同による教員養成教育の改革、③地域社会に対する学部教育の積極的な公開、等の事業に取り組んできた。

本フォーラムは、学生を主役として、この２年間の本学部の取り組みとその成果を広く公開し、地域における教員養成教育の課題について幅広く意見をいただくことを目的に実施した。

1 学生による活動報告

／参加者とのディスカッション

①分科会「学校」

「学校」領域では、学生が実際に学校現場に入り、学校の一員として学習支援や様々な行事、クラブ活動などに参加している。

○学生による報告概要

『３回生の実習セメスター期間中に２つの公立小学校で合計３週間の実習を行いました。その実習の中で、特に１つの学校では毎日授業をしたり、担任の先生の代わりに２日間クラスを担任したりと、学校理解と指導力が身に付きました。もう１つの学校では、地域の方の家にホームステイしながら実習したため、地域から見た学校という新しい視点から学校を見つめる良い機会になりました。２つの学校それぞれに特色があり、学校ごとの生活・教師の動きというものを肌で感じることができました。』

『島根県立松江養護学校では、土曜日も学校を開放することで子ども達に活動の場を提供しています。学生ボランティアは、そのような子どもたちの遊び相手になっているのですが、そこから障害のある子どもと関わることの難しさを、身をもって体感することができました。同時に、子どもたちの個性であったり、様々な場面における対処法であったり現場で働く先生方から学ぶこともできました。』

②分科会「地域」

「地域」領域では、活動の拠点を地域社会におき、その特徴を生かした活動を、地域の方々や子どもたちと一緒に行っている。学生は、ボランティア・スタッフとしてその事業の企画に関わり、また社会教育施設が主催する講座を自主的に受講して自身のスキルアップを図っている。

○学生による報告概要

『鳥取県立船上山少年自然の家で活動を行っています。活動内容としては、「船上山　四季を楽しむ」などで、班付きリーダーとして、子どもたちと活動、生活しています。この活動の中で、子どもたちとどのように関わっていくのか、また子どもたち同士の関わりを大切にすることの重要さについて学びました。このような活動に参加するようになり、もっと人の意見を聞いて自分に吸収したいと感じるようになったり、人にも自分の意見を聞いて欲しいと思うようになったりと、自分も成長することができました。これからも自分を磨くためにボランティアを続けていきたいと思っています。そして、そこで見つけた新たな課題に正面から向き合い、さらに自分を成長させることができればと思います。』

『国立三瓶青少年交流の家で行われている事業や活動に参加してきました。その中の、スマイルキャンプには毎年参加しています。この活動は島根県内の適応指導教室に通う子どもたちが参加し、交流を図ったり、様々な体験活動を行ったりする活動です。参加者の中には、皆で一緒に活動することが苦手な子どもも多く、活動を辛いと感じてしまう子どももいます。そのような子どもにも、楽しんで活動することができるよう、子どもたちを支援していくことが私たちボラン

ティアの役割です。活動が始まった頃は、おとなしかった子どもたちも、最後には、積極的に話しかけてくれるようになり、活動に取り組む姿を見ると本当に嬉しく感じます。私自身も子どもたちと関わることで学ぶことも多く、今後も卒業するまで活動に参加していきたいと思っています。』

③分科会「子ども」

「子ども」領域では、子ども会、キャンプ、スポーツなどを通して、子どもと関わることに重点を置いている。その中で、子どもとの関わり方を学ぶことから始まり、指導方法、子どもを育てる支援の仕方などを学んでいる。

○学生による報告概要

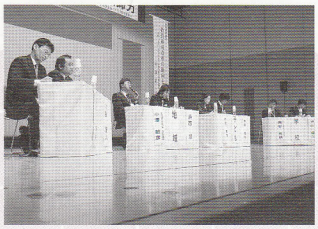
『１回生の後期から、養護学校の学童クラブで介助員として活動を行ってきました、学童クラブでは、授業が終ってから保護者の方がお迎えに来られるまでの時間を、子どもと過ごしています。１対１の担当制となっており、担当する子どもは日によって違いますが、音楽を聴いたり体育館で遊んだりと、子どもの希望に合わせた活動を行っています。コミュニケーションのとり方など大変な面もありますが、毎回が勉強だと感じながらも楽しく活動を行っています。』

『島根県立武道館スポーツ教室で、小学生を対象に剣道の基礎基本を指導しています。

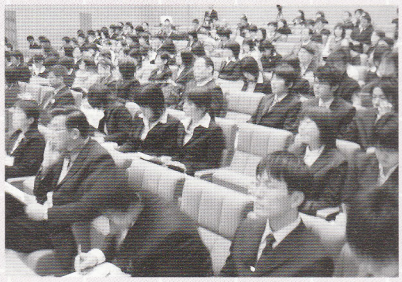
子どもの技量によって、初級、中級、上級に分かれており、私は、初級、中級の指導を任されています。そのため、稽古の内容や指導方法を学生で決めて指導しています。こうしたことから指導力だけでなく、計画力が身に付いたと思っていますし、子どもと直に接する機会が多いことで子どもへの理解も深まったと思います。』

② パネルディスカッション

午前に行われた分科会「学校」「地域」「子ども」の代表学生各１名が、分科会報告（前述のディスカッションのまとめ）を行い、その後1,000時間体験学修受け入れ機関代表者３名、学生代表者３名によるディスカッションが行われた。司会は教育支援センター専任教員１名とFD戦略センター兼任教員１名が務めた。



③ 総括記念講演



文部科学省高等教育局専門教育課課長補佐・安部栄一氏により、『教員養成改革の動向と未来～「在り方懇」報告から教職員大学院構想へ～』と題して、講演していただいた。

④ 座談会
「いま、求められる教師とは？」

教育学部長がコーディネーターを務め、松江市長・松浦正敬氏、特定非営利活動法人あしぶえ理事長・園山土筆氏、出雲科学館副館長・岩崎知久氏をゲストに迎え、それぞれの立場からご意見を伺った。概要については以下の通りである。

① 子どもにとって良い教師との出会いが大切であり、その子どもにとって記憶に残るような言葉や感動を与えられるような教師になってもらいたい。

② 学校というのは子どもが良き社会人になるための場であり、教師は卒業した子どもがどのような社会人になるか、常に考えておかなければならない。

③ 教師は授業を成立させることや生活指導を行うことはもちろんのこと、保護者や地域との連携を図ることが必要である。そのために1,000時間体験は、社会の多くの人と接することで自分自身を内面から変え、またコミュニケーション能力を高めることができる。

④ 大学内での学習と大学外での体験活動は対極にあるものではなく、まさに車の両輪である。感動を与えることができる、情熱を持った教師を育成することが必要である。

卒業生からのメッセージ

警察官を目指して

生涯学習課程スポーツ科学コース
藤本　有加

私は中学校から柔道をしている。この柔道を始めたことが、警察官という職業を目指すきっかけとなった。大学生活は何もかもが新鮮であり、部活動と勉強、バイト、とても有意義な時間であった。私は教育学部の体育を専攻したため、教育実習に行ったり、指導者となるような勉強をした。またいろいろな施設で実習を行い、いろいろな方と関わることができた。また、部活動にも力を入れ全国大会を目指した。教育実習では中学生や先生方とかかわり、人との関わりなど大切なことを学んだ。部活動でも先輩や後輩という中で人との関わりなどを学んだが、やはり、武道ならではの礼儀や精神力、忍耐力などの学びは大きかった。

大学生活もあっという間に過ぎ、4回生になると会社などはもう試験などが始まっていた。島根県警察官の試験受付も5月にあり、試験が一次試験7月、二次試験8月、合格発表が9月となっていた。一次試験は筆記試験や体力試験があった。筆記試験にあまり自信がなかったので体力試験は絶対に満点を取るという気持ちで臨んだ。二次試験では面接があった。履歴書に部活動のことを書いていたのでやはり聞かれたが、柔道で学んできたものは自信を持って答えることができた。そのほかになぜ警察官になりたいのかと聞かれた。私は、正義感の強さや、今、問題となっている子どもたちの巻きこまれる事件をどうにかしてなくしたいなどと述べた。自分がなぜ、警察官になりたいのか、警察官になったらどうしたいのかなどの意見をはっきりと持つことが重要である。また、自分をアピールできる何かがあることが大きいと思う。私は柔道というものを行ってきたことがそれであると思う。また、続けることができるということは警察官だけではなく、どのような会社であっても重要なことではないだろうか。

今回私は試験に合格することができたが、やはりただ、警察官になるだけの勉強をしていたのではなく、いろいろな人と接することができ、いろいろな体験をしたからこそ合格できたのだと思う。この4年間という大学生活で学んだことは、大学とは違う新しい社会であっても、必要であり、私がこれから警察官となって働いていくうえで大きな力となるものであると思う。この経験を生かし、警察官という仕事を行っていきたいと思う。

ルーキーの声

専攻別体験活動（読書会ゼミ）に参加して

初等教育開発専攻　1回生
小川　智大

私は1000時間体験学習への取り組みとして、初等教育開発専攻の専攻別プログラムとして提示されていた読書会ゼミに参加しました。

読書会の発表会では1冊の本を読み込み、それを1時間で発表しました。何も知らない他班の学生に対し発表を行う事は、私達に、より一層の内容理解と発表手法の工夫を要求するものでした。その読書会の中で班員からは、十人十色の様々な解釈や意見、考察などが飛び出しました。それらの多くは私の中には無かったもので、それらを自身の内に取り入れ、改めて物事を別の視点から観る事で気付く事もあり、多角的に物事を観る事の重要性を教えられました。

今回の発表会を成功に導いたのは二回生の先輩方のリーダーシップと、責任感、そして一回生には未だ無い「経験」であったのだと思います。勿論一回生も相当な働きをしたと思いますが、二回生の先輩方が居られたからこその会であったと感じます。班長として班を纏め、また全体の雰囲気を良くしようと場を和ませ、読書会では一回生よりも実際の教育に重点を置いた意見を出し、自らの経験から本を読み解く姿に、1年間の差を感じました。1年経つこの時になり、再び自分の目指しているものの大きさと、その道のりの遠さを感じました。しかし、自分の目指す姿を再確認できました。

この会を通し先輩方と仲良くなり、教育というものの片鱗に触れ、そして自らの現在とこれからの指針を得る事ができました。とても素晴らしい会でした。

平成18年度 教育学部後援会幹事名簿（20名／順不同）

地区	氏名	課程	学生氏名	備考
松江市	山﨑敦史	院 1	山﨑順子	会長
松江市	西尾俊也	学教 4	西尾菜穂子	監事
松江市	小村健二	生涯 4	小村志帆	
松江市	石橋司朗	生涯 4	石橋麻美	
松江市	松本剛一	学教 4	松本麻美	
安来市	宮本徹也	生涯 4	宮本敬子	
仁多郡	塔村勇治	学教 4	塔村美奈	副会長
米子市	吉田章一郎	生涯 4	吉田理恵子	
松江市	黒田徹	学校教育3	黒田達也	会計幹事
雲南市	堀江安男	学校教育3	堀江智史	
松江市	飯塚節子	学校教育3	飯塚洋平	
松江市	山根茂雄	学校教育3	山根舞	
米子市	内田義巳	学校教育2	内田ひとみ	
雲南市	西山成信	学校教育2	西山圭信	
簸川郡	曽田悟	学校教育2	曽田茉莉香	副会長
松江市	小村陽悦	学校教育2	小村さやか	
浜田市	驛田省吾	学校教育2	驛田久子	
安来市	大西啓治	学校教育1	大西美貴	
松江市	福島浩	学校教育1	福島彩	
東出雲町	福間眞澄	学校教育1	福間春奈	

課程名の正式名称は以下の通りです。

- 学教　学校教育教員養成課程
- 生涯　生涯学習課程
- 学校教育　学校教育課程

編集後記

教育学部後援会誌第3号をお届けします。平成18年度はわが教育学部の大きな転換点だったと思います。本号の特集でもご紹介しましたが、「教育フォーラム」の開催は、これまでの学部の取り組みの集大成として大きな意義を有するものでした。特に「学生主体のフォーラム」が実現したことは、全国の教育学部が注目するところです。

さらに、今年度と来年度の2年間で、学部の大改修工事が実施されます。老朽化の激しかった施設が一挙に整備されます。「新しい酒は新しい革袋に」のたとえ通り、新しい取り組みに邁進する学部に、それにふさわしい施設整備が実現することは、教育学部の未来に大きな期待を抱かせるものです。

（事務局）

発　行：島根大学教育学部後援会
発行日：平成19年3月15日
発行所：島根大学教育学部内
教育学部後援会事務局
所在地：〒690-8504
松江市西川津町1060
TEL. 0852－32－6251
FAX. 0852－32－6259
印　刷：㈱谷口印刷

おまかせ下さい!!
企画・デザイン・撮影から、印刷に関わるetc.
また、ホームページ、CD-ROMのご相談もお気軽に。
株式会社谷口印刷
TANIGUCHI PRINTING CORPORATION
〒690-0133　島根県松江市東長江町902-59（朝日ヒルズ工業団地）
TEL（0852）36-5888㈹　FAX（0852）36-5889
E-mail:admin @ tprint. co. jp　http: // www. tprint. co. jp